

第1回福井市都市再生緊急整備地域準備協議会 発言要旨・対応表

| | |
|----|-----------------------|
| 件名 | 第一回福井市都市再生緊急整備地域準備協議会 |
| 日時 | 平成30年3月23日 13:30～ |
| 場所 | 福井市役所第一委員会室 |

| 委員からの意見 | 対応の検討 | 地域整備方針への反映 |
|---|--|--|
| <p>・都市再生は役所だけでやっても駄目で、<u>投資を呼び込むために福井に期待感を持つような福井の得意とする文化、歴史、産業などの魅力を発信しなければ</u>ならない。</p> <p>・まち、ひと、仕事はセットである。繊維も、復活している。化学繊維の力は図抜けているので、駅の周りに埋め込んでいったほうがよい。</p> | <p>○福井独自の歴史、文化、工芸品等を海外にPRする。</p> | <p>○「繊維王国福井」の繊維技術、製品および、ふくい「食」ブランドをアジア、欧米に広く情報発信し、インバウンドを強化</p> |
| <p>・福井市のブロック計画ではなく、<u>広域で考え、アジア、世界から見た福井、日本海側から見た福井をアピールする必要がある</u>。雪はアジアにとって貴重であり、<u>日本には大陸と決定的に違う工芸品、歴史がある</u>。</p> | <p>○金沢等との都市間連携、敦賀港からのクルーズ船の観光客を呼び込み、永平寺、スキー場へ向かう拠点として福井の交通結節機能を強化する。</p> <p>○敦賀港と小松空港との連携を強化し、外国人観光客、外国企業のインバウンドを取り込む。</p> | <p>○福井市は日本海側の中心に位置し、2023年春の北陸新幹線福井(敦賀)開業により、日本海国土軸が形成されるとともに、関東圏と直結することから、交流人口の増加が見込まれる。また、日本海側の空と海の国際拠点である小松空港および敦賀港と概ね30分以内で連絡可能となることから、これらの施設との連携を強化し、環日本海諸国からの人の流れ、インバウンドを取り込み、都市の活性化を目指す。</p> |
| <p>・福井は拠点性があり、永平寺、スキージャム勝山、敦賀港からのクルーズ船の観光客を呼び込む、<u>金沢等との都市間連携が必要</u>。</p> | <p>○福井駅における公共交通機能結節機能の利便性を向上させる</p> | <p>○福井駅から観光地までの交通利便性を向上させ、在来線、地域鉄道、バス等の交通結節拠点機能を強化したネットワークを形成</p> |
| <p>・人口減少を強調しすぎている、所得を増やし経済を良くすることを考える方がよい。金融構造自体が変化してきており、<u>クラウドファンディングのような、人々の思いがお金の投資・融資に入る新しい形の</u>一つである。</p> | <p>○クラウドファンディングの活用</p> | <p>○地域の活性化、まちづくりの推進に寄与するクラウドファンディングの活用</p> |
| <p>・<u>地元の大学と連携して、サテライトキャンパスを再開発の</u>ところに入れるようするとうまくいく。</p> | <p>○地方大学との連携強化</p> | <p>○地方大学と連携し、中心市街地でサテライトキャンパスを開講することにより、若者を街中に誘導し、賑わいを創出</p> |
| <p>・インバウンドを考えると京都、金沢などの都市間競争に打ち勝っていく必要がある。</p> | <p>○敦賀港と小松空港との連携を強化し、外国人観光客、外国企業のインバウンドを取り込む。</p> | <p>○福井市は日本海側の中心に位置し、2023年春の北陸新幹線福井(敦賀)開業により、日本海国土軸が形成されるとともに、関東圏と直結することから、交流人口の増加が見込まれる。また、日本海側の空と海の国際拠点である小松空港および敦賀港と概ね30分以内で連絡可能となることから、これらの施設との連携を強化し、環日本海諸国からの人の流れ、インバウンドを取り込み、都市の活性化を目指す。</p> |
| <p>・<u>拡散するハブと集約するハブとしての福井市というのを考えるべき</u>。永平寺なりスキージャム勝山なり恐竜博物館につないでいくハブとして、<u>その世界がイメージできるもの</u>を作り込んでいかないといけない。</p> <p>・<u>もう少し幅広く県都としての福井市に集約させるような仕組み、仕掛け</u>というのが必要である。</p> | <p>○都市間連携、永平寺等の観光地へ向かう観光客の拠点として福井の交通結節機能を強化する。</p> | <p>○福井駅から観光地までの交通利便性を向上させ、在来線、地域鉄道、バス等の交通結節機能強化したネットワークを形成</p> |
| <p>・PPF、PFIなどの官民連携を図る一方、民間中心の再開発で、民間としてどう地域を盛り上げるか。</p> | <p>○官民連携の強化</p> | <p>○官民連携のエリアマネジメントによるまちの魅力とにぎわいを創出</p> |
| <p>・福井県の生産性が低い。これをどう変えていくかということが第一の命題で、この地域を拠点にどう<u>全国、世界に福井の持っている強み「ものづくり」(眼鏡、繊維、プラスチック)をどう拡散させるのか</u>。あるいは<u>それに関する情報をどう集約することがプラットフォーム化</u>の一つ。</p> | <p>○福井県企業の技術、製品を広く情報発信PRする。</p> | <p>○「繊維王国福井」の繊維技術、製品および、ふくい「食」ブランドをアジア、欧米に広く情報発信し、インバウンドを強化</p> |
| <p>・<u>関西圏との繋がりは深い</u>が、<u>関東圏、中京圏との繋がりをいかに増やしていく</u>かが課題である。</p> <p>・<u>新幹線は敦賀と福井は同時開業になり、歴史的に見ると敦賀は大陸との拠点</u>であり、グローバルな都市である。国鉄、鉄道網も整備されてきた。アジアからヨーロッパへつなぐというグローバル都市でもある。そういったすばらしい歴史を持つ敦賀と福井がどう<u>連携して優位性をいかに高めていく</u>か。そういった拠点性をどう作り上げるかを考えていかなければならない。</p> | <p>○北陸新幹線開業後に関東圏、中京圏との繋がりを強化する。</p> <p>○敦賀港との連携を強化し、大陸からの人の流れ、インバウンドを取り込む。</p> | <p>○福井市は日本海側の中心に位置し、2023年春の北陸新幹線福井(敦賀)開業により、日本海国土軸が形成されるとともに、関東圏と直結することから、交流人口の増加が見込まれる。また、日本海側の空と海の国際拠点である小松空港および敦賀港と概ね30分以内で連絡可能となることから、これらの施設との連携を強化し、環日本海諸国からの人の流れ、インバウンドを取り込み、都市の活性化を目指す。</p> |
| <p>・福井県内製造業の下請け率が変化し、自立化が進み、下請けからは脱却し、独自の製品を持って生きてく方向に変わってきた。そんな変化を捉えて、この拠点化とこの強みを更に活かしていくことを考えていかなければならない。</p> | <p>○福井の魅力、強みを活かしたまちづくりを目指す</p> | <p>○福井駅周辺はかつての城郭の範囲に、行政、業務、商業、交通結節機能等、様々な都市機能が集積しているという特徴を活かし、歴史と文化を継承し、県都にふさわしい魅力と風格のあるまちづくりを目指す。</p> |

| 委員からの意見 | 対応の検討 | 地域整備方針への反映 |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 福井市は製造業の割合が全国的にみても非常に高い。 付加価値の高い都市型産業を中心部に集積させる。 | ○福井の産業の魅力を発信する。 | ○「繊維王国福井」の繊維技術、製品および、ふくい「食」ブランドをアジア、欧米に広く情報発信し、インバウンドを強化 |
| <ul style="list-style-type: none"> 福井市だけでなく福井県での拠点性、中心であるというところを盛り込んだほうがよい。 | ○敦賀港および小松空港との連携を強化し、環日本海諸国からの観光客、対日投資を呼び込む | ○福井市は日本海側の中心に位置し、2023年春の北陸新幹線福井(敦賀)開業により、日本海国土軸が形成されるとともに、関東圏と直結することから、交流人口の増加が見込まれる。また、日本海側の空と海の国際拠点である小松空港および敦賀港と概ね30分以内で連絡可能となることから、これらの施設との連携を強化し、環日本海諸国からの人の流れ、インバウンドを取り込み、都市の活性化を目指す。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 日本全体からみでの福井のイメージを提示したほうがよい。共働きで働きやすい環境、親御さんが近くにいるという生活スタイルで、教育県と言われるくらい優秀な方がたくさんいる。これからの日本が向かうスタイル。 | ○多様居住ニーズ、スタイルに対応する。 | ○多様な居住ニーズに対応し都市型居住機能の導入と業務、居住などの日常生活を支える生活利便施設の充実 |
| <ul style="list-style-type: none"> 永平寺、東尋坊、恐竜博物館等の観光地と福井駅周辺エリアとの連携が必要である 地域の繁栄には鉄道とバス、観光、地域住民との連携が重要である。 | ○永平寺等の観光地へ向かう観光客の拠点として福井の交通結節機能を強化する。 | ○福井駅から観光地までの交通利便性を向上させ、在来線、地域鉄道、バス等の交通結節機拠点能を強化したネットワークを形成 |
| <ul style="list-style-type: none"> 福井のモノづくりというキーワードをインパクトのある形にして福井ではこれが体験できるということをどのように発信していくかが重要。 外国人観光客はツアー型から個人旅行型に変わってきており、個人旅行者に楽しんでもらうことが必要。 | ○福井県企業の技術、製品を広く情報発信PRする | ○「繊維王国福井」の繊維技術、製品および、ふくい「食」ブランドをアジア、欧米に広く情報発信し、インバウンドを強化 |
| <ul style="list-style-type: none"> 経済は大事だが、お城の周りは、経済的にはなかなか難しいエリアであり、経済的な機能はどこで何をやるか。商業の集積が大事なので、どう組み合わせるか。普通のビジネスと第2次産業の本社機能と商業との配置検討が必要。 | ○中心部の業務拠点の集積 | ○交通結節点の利便性を活かした駅前業務拠点の形成と、MICE機能、インキュベーション機能等の業務支援機能を誘導 ○企業の事業継続計画（BCP）対策ニーズに配慮した建物の整備 |
| <ul style="list-style-type: none"> 地域住民、観光客、ビジネスマン、ターゲットにしたい人は誰なのか絞り込んだほうがよい。 新幹線開業を迎える福井駅のエリアを広く捉え、年間100万人来場する恐竜博物館の客へ目を向けるとおもしろい。 | ○観光客をターゲットにする ○福井駅から観光地までの交通利便性を向上させる ○観光客の滞在を促進させるための大型バス駐車場の整備 | ○福井駅から観光地までの交通利便性を向上させ、在来線、地域鉄道、バス等の交通結節拠点機能を強化したネットワークを形成 ○駅周辺の歴史資源と商業、業務エリアを結ぶ回遊性を高める歩行者ネットワークを強化 |
| <ul style="list-style-type: none"> 福井駅周辺に交通を結節させている、人口減少が進むと県内の周辺の方の高校が福井市内に集約される。バスしかない路線をどのようにして守っていくか。、そして福井駅周辺が通学生たちのターミナルになるというようなことを進めていかないといけない。このエリアというのは福井県にとっても非常に重要なエリアになる。 | ○福井駅における公共交通機能結節機能の利便性を向上させる ○福井駅周辺を県都としてふさわしい市街地にする | ○福井駅から観光地までの交通利便性を向上させ、在来線、地域鉄道、バス等の交通結節拠点機能を強化したネットワークを形成 ○福井駅周辺はかつての城郭の範囲に、行政、業務、商業、交通結節機能等、様々な都市機能が集積しているという特徴を活かし、歴史と文化を継承し、県都にふさわしい魅力と風格のあるまちづくりを目指す。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 民間主体のまちづくりを支援する体制を整えていきたい。 まちづくりに対する機運醸成が民間・行政で十分調整できていないので、委員の方々の意見をいただき課題解決に取り組んでいきたい。 | ○民間都市開発事業の支援 ○県との顔となる魅力的なまちづくりを目指す | ○多様な都市機能と魅力ある都市景観を備えた複合市街地を形成 ○県都の顔となる魅力的な景観形成に配慮した都市開発事業を促進 |
| <ul style="list-style-type: none"> 福井市はモノ消費からコト消費に変わっている、福井駅から西口をつなぐ中で周辺部も含めて体験型の観光をしよう。 宿泊についても、外国人観光客も視野に入れ、高級感がある宿泊先を醸成していかなければならない。 | ○都市開発事業により、観光、商業、宿泊等の都市機能を充実し、中心市街地にぎわいを創出する | ○中心市街地のにぎわいの核となる観光、商業、業務、宿泊および駐車機能の強化・充実 |
| <ul style="list-style-type: none"> 来年4月の中核市移行を目指し、周辺市町と連携していく。今後は、さらにエリアを広げた観光連携の計画を策定する。 | ○福井駅から観光地までの交通利便性を向上させる | ○福井駅から観光地までの交通利便性を向上させ、在来線、地域鉄道、バス等の交通結節拠点機能を強化したネットワークを形成 |
| <ul style="list-style-type: none"> IoTとかAI関係の企業の誘致にも視野を入れながら、助成金の制度についても充実させる。未来投資促進法に基づくエリアなども策定しながら、先進的な企業の誘致、起業の支援メニューを毎年見直しし、新たな熱意のある方の起業を呼び起こしたい。 | ○業務・起業支援メニューの充実 | ○交通結節点の利便性を活かした駅前業務拠点の形成と、MICE機能、インキュベーション機能等の業務支援機能を誘導 |